

## スペクトラム・オブ・ザ・シーズの香港発着日本・フィリピンクルーズ(その2)

事務局長 池田良穂

香港に着いた翌朝、ホテルからカイ・タック・クルーズターミナルまでタクシーで移動して、「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」に乗船しました。隣にはゲンチンググループの運航するプレミアム船「ワールド・ドリーム」が停泊していました。また、すぐ近くにカジノ船として稼働している2隻の客船の姿も確認できましたが、スモッグで霞んでいました。1隻はスタークルーズの「パイシーズ」に違いありませんが、もう一隻の確認はできませんでした。帰国してからAISで調べてみようと思います。

さて、乗船は10時半からとの案内があったので、11時過ぎに着くように行っただけですが、すでに受付にはたくさんの乗客の姿がありました。ここでは大きな混乱もなく、比較的スムーズに受付が完了。乗船することができました。予約した9階のキャビンの階の部屋の清掃がまだ終わっていないとのことで、14階のビュッフェレストラン「ウィンドジャマー」で昼食をとりながらシップウォッチング。しかし、霧でまともの写真は撮れませんでした。ウィンドジャマーの最後部のスペースは「オーバーション」まではオープンエアーのスペースだったのですが、「スペクトラム」では鍋料理(ホットポッド)の特別レストランになって、暴露デッキがなくなっていました。いつも、このスペースで船の航跡を見ながら朝食をとるのが楽しみだったのにちょっと残念。

13時頃にすべてのキャビンの準備ができたとのアナウンス。キャビンは、いつものように左舷側のベランダ付きの部屋をとりました。それは右側通行の港内や狭水道で反航する船の写真が撮りやすいためです。

部屋に荷物を置いてから船内探索をすることにしました。この船は「クァンタム」級の第4船目で、これまで「クァンタム」と「オーバーション」の2隻に乗船した経験がありますが、「スペクトラム」は建造時から東アジアマーケット向けの仕様になっており、先に生まれた3隻の姉妹船とは、船内にいくつか大きな変化があります。

1つは4つにテーマ別に分かれていたメインレストランが、吹き抜け2層構造の1体のレストランに変わっていました。5階の天井から吊るされた回転する巨大オブジェの下の1階部分には大きなキャプテンテーブルがありました。

大きく立派だったスパのスペースが小さくなり、サウナは男女の更衣室の中に小さなものが1つずつあるだけになりました。マッサージ用の部屋も少なくなりました。

これらの公室を減らしてスイートクラスの専用スペースを大きくとっています。14階の前方の見晴らしのよいソラリウムもスイートクラスの専用スペースになり、スイートクラス用のカードがなければ入れません。最も眺望の良いシップウォッチングには欠かせない公室だけにショックでしたが、RCIのクルーズに乗船した経験数に応じたクラウン&アンカーのダイヤモンド会員はソラリウムの利用が可能となり一安心。「ソング・オブ・アメリカ」以来、RCIの船にはたくさん乗っているので、筆者も今ではダイヤモンド会員で

す。ソラリウムの最前方の左右には、ブリッジの真上にオープンエアーのデッキがあり、写真撮影には最適なスポットです。

さて、「ワールド・ドリーム」の出港をベランダから見送って、いよいよ「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の出港です。出港前にボートドリルがありました。その呼び方が「ゲスト・アッセンブリ・ドリル」となっていました。キャビンごとに、4階および5階の公室が集合場所に指定されていて、そこに集まりライフジャケットの装着のデモンストレーションをみて、さらにビデオでの説明がありました。このビデオは「007」仕立てのちょっと凝った作りでした。

出港して船が外海に進むにつれて霧が晴れてきましたので、やはり上海での霧はスモッグなのかと思いました。20時からのセカンドシーティングの夕食が始まりました。

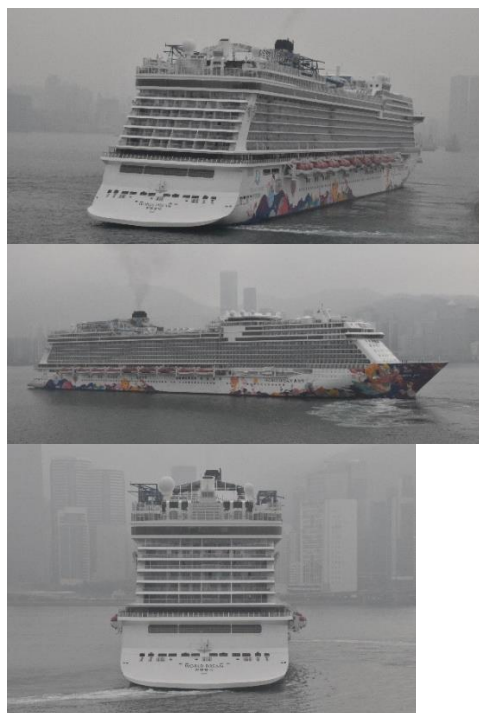
クルーズ2日目は終日航海。はじめは20.6ノットで走っていた船は、波が荒くなって19.6ノットに落ちました。船体運動はほとんど感じませんが、体が左右に小刻みに揺すられる振動が続き、階段室では内装が軋む音が聞こえていました。

3日目の朝に久米島沖を通過して、朝の9時には那覇港の関門を通過して、コンテナターミナルの前で180°回頭して着岸しました。40人余り乗船していた日本人の入国審査は着岸後すぐに10時からありました。

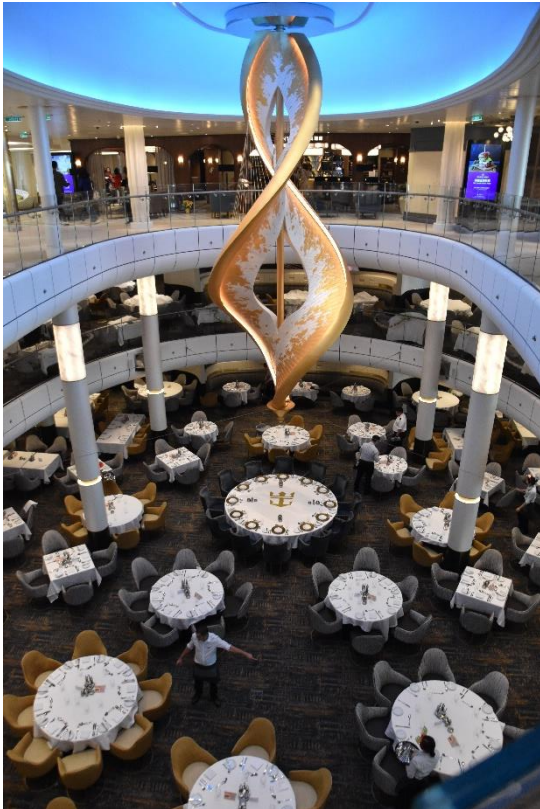
しかし、他のパスポートの乗客の入国審査は船内で長蛇の列となり、たぶん最後の人が上陸できたのは13時をまわっていたのではないかと思います。約4900人という乗客の審査体制は那覇ではまだできていないようでした。



カйтックのクルーズターミナルの沖合に2隻のカジノ船がブイ係留されていました。乗客はオーシャンターミナルからボートで移動して乗船します。上はスタークルーズの「パイシーズ」、下は形からは「メトロポリタン」のようですが、船名の確認はできませんでした。



並んで停泊していたドリームクルーズの「ワールド・ドリーム」が先に出港していきました。主に沖縄クルーズに就航しています。



「クアンタム」級と大きく変わったのはメインダイニングルームです。3階と4階の2層の吹き抜け構造で、4階のスペースから見るできるようになっています。船内新聞によると3階は「トラディショナル・ダイニング」と記載されており、4階は上級客用の「マイ・タイム・ダイニング」となっていました。



船首にあるシアターでは、食後に合わせて毎晩ダイナミックなショーが行われていました。



船尾にあるショースペース「Two270°」のショーは、予約制です。映像やロボットも駆使した現代的な出し物が毎日行われていました。



無料で利用できるメインダイニング、buffetレストラン以外に8つ有料特別レストランがあります。以前は席料程度で利用できるレストランが多かったのですが、ほとんどが料理によって料金が4000~9000円で設定されていました。中国の乗客は、高くても高級な食事を選ぶ人が多いということなのでしょうか。



ソラリウムの入り口には上等級客専用という表示があり、上等級のカードがなければドアがひらかなくなっていました。



船内はクリスマス一色。24日にはクリスマスディナー、クリスマス特別ショーなど、さまざまなイベントが催されました。

乗船客は4900名弱でほぼ満船状態のよう。そのうち1300名が子供とのこと。子供たちはそれぞれ年代によるプログラムが用意されており、船内で走り回っている光景はあまり見かけませんでした。



海はかなり荒れて、小型船は大きく揺れながら航行していました。さすがに17万トンの巨体はほとんど揺れませんが、左右に小刻みに揺られるホイッピングと、内装が軋む音がしていました。



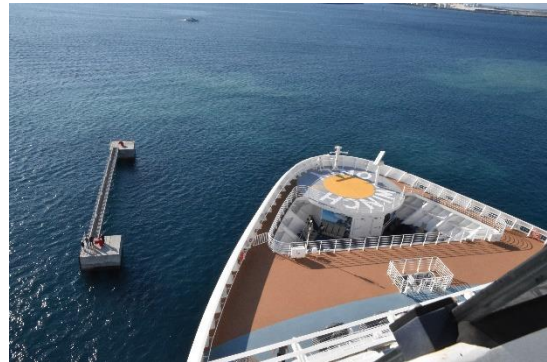
那覇港に入る直前に高速旅客船「マリンライナーとかしき」と反航しました。



那覇港の関門を9時に通過して、左に舵を切り、画面右に見えるコンテナ埠頭に向かいました。



岸壁の前で180°回頭してから岸壁へと近づきました。



船首が岸壁から突き出してしまうため、船首からのロープは新設された係船柱につなぎます。



船首の綱とり作業には、タグボート Blue Star があたりました。船首に係船綱を下ろし、それを海上の係船柱まで運んで、あとは人力で綱をかけてました。



停泊した「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」を泊大橋の上から撮影しました。手前の白い船は巡視船「おきなわ」です。



15時に波之上のクルーズターミナルに「コスタ・ベネチア」が入港してきました。泊大橋の上の歩道からの撮影です。うまく顔写真も撮れました!!



「コスタ・ベネチア」と「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」を同じ画面に収めることができました。那覇港では、「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」が停泊するコンテナ埠頭を延長してクルーズ専用岸壁を造る計画です。ターミナルビル等の上物施設は MSC とロイヤル・カリビアン の共同建築となる予定です。



船の部屋のベランダから見る泊港です。「フェリーざまみ3」が停泊し、「フェリー栗国」が入港する瞬間です。上に見える橋が泊大橋です。



同じく船の部屋のベランダから撮影した「コスタ・ベネチア」です。